

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

1) 福岡県肝疾患相談支援センターの肝炎医療コーディネーター事業の状況
2) 福岡県における肝炎医療コーディネーター養成セミナーの現状

研究分担者：井出達也
学校法人久留米大学 医学部内科学講座消化器内科部門 教授

研究要旨： ウイルス性肝炎の治療が向上し、また代謝性肝疾患も研究が進んでいる。しかし一方で、肝炎ウイルス検査を未施行もしくは認識していても肝癌まで進展した例などが散見される。このような患者をいかに受診、受療まで持ち込むかが重要であり、そのような活動に肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活躍が非常に重要になっている。今回福岡県における肝 Co の養成状況(研究 1)と現状(研究 2)について解析した。【方法】研究 1) 2011 年から肝 Co の養成を開始、2017 年からフォローアップセミナーを開始した。養成方法、フォローアップセミナーの方法などについて解析した。研究 2) 肝 Co 養成セミナーの 2023 年度の 9 月開催分につき、アンケートの結果を解析した。【結果】研究 1) 肝 Co 養成セミナーは、年 2 回開催しており、コロナ後は WEB によるオンデマンド視聴とした。セミナーの開催時間は 2~2.5 時間で、レポートの提出を行なってもらうことで認定とし、認定者数は、2022 年までに 1,728 名である。更に認定年度の翌年度にフォローアップセミナーを受講した場合、永年認定となる。フォローアップセミナーも年 2 回開催しており、講義+グループディスカッションで、計 2.5 時間である。グループディスカッションは職種別に分かれてグループを作り、肝 Co として活動できているか、いないか、今後行いたい活動などをディスカッションし発表する形式である。フォローアップセミナーに参加すれば、フォローアップ受講年度の翌年度より、永年認定としている。2023 年度までに、約 1,000 名の認定者数となる。研究 2) 肝 Co 養成セミナー(2023 年 9 月)の参加者は 84 名で職業は、看護師が最も多く、年齢は 40 歳代が最も多く、多くは女性であった。セミナーの実施時期、開催方法、講演時間、講演内容、満足度も高かった。【結語】これまで多くの肝 Co を養成してきており、講義やグループディスカッションは非常に有意義なものとなっている。今後は人数だけでなく講義やグループディスカッションで肝 Co 活動のヒントも提供し質も高めていく必要があると考えられた。

A. 研究目的

ウイルス性肝炎の治療が向上し、また代謝性肝疾患も研究が進んでいる。しかし一方で、肝炎ウイルスの検査を未施行もしくは認識していても肝癌まで進展した例などが散見される。さらに治療に積極的でない医師、無関心の医師、誤診したり知識不足の医師もいるのが現状である。従って、こ

のような患者をいかに受診、受療まで持ち込むかが重要であり、そのような活動に肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活躍が非常に重要になっている。今回福岡県における肝 Co の養成状況(研究 1)と現状(研究 2)について報告する。

B. 研究方法

研究 1)

久留米大学病院は 2010 年に福岡県で唯一の肝疾患診療連携拠点病院の指定を受け、肝疾患に対する医療の均てん化を視野にいたれた活動を開始した。2011 年から肝 Co の養成を開始、2017 年からフォローアップセミナーを開始した(スキルアップするためのセミナーである)。養成方法、フォローアップセミナーの方法などについて解析した。

研究 2)

上記の肝 Co 養成セミナーの 2023 年度の 9 月開催分につき、アンケートの結果を解析した。

(倫理面への配慮) 肝 Co の養成状況や現状であり、倫理面には問題ないと思われる。

C. 研究結果

研究 1)

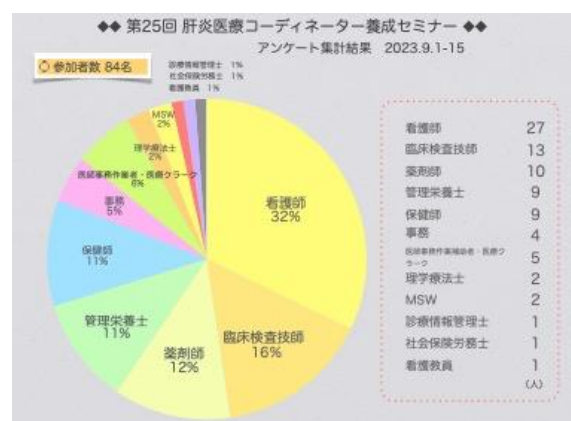
肝 Co 養成セミナーは、年 2 回開催しており、コロナ禍前は、現地にて講義形式で開催していたが、コロナ後は WEB によるオンデマンド視聴とした。セミナーの開催時間は 2 ～ 2.5 時間で、確認テストはなく、レポートの提出を行なってもらうことで、認定としている。セミナーの内容は、ウイルス性肝炎、NASH、栄養療法などある程度一定の内容を繰り返しており、新しい情報が出た時に更新している。認定者数は、2022 年までに 1,728 名である。認定されると受講年度の翌年度末までの認定証が福岡県知事により交付される。更に認定年度の翌年度にフォローアップセミナーを受講した場合、永年認定となる。

一方、フォローアップセミナーも年 2 回開催しており、講義+グループディスカッションで、計 2.5 時間である。コロナ禍の 3 年間はグループディスカッションが開催できなかったため、あらかじめアンケートに記載のあった事柄を我々がまとめ発表し、

WEB で視聴としたが、2023 年度からは現地開催のみに戻した。講義は、肝 Co として経験の深い看護師などからの講義、当センター医師からの講義、患者講義などである。グループディスカッションは職種別に分かれてグループを作り、肝 Co として活動できているか、いないか、今後行いたい活動などをディスカッションし発表する形式である。フォローアップセミナーに参加すれば、フォローアップ受講年度の翌年度より、永年認定としている。2023 年度までに、約 1,000 名の認定者数となる。

研究 2)

肝 Co 養成セミナー(2023 年 9 月)のアンケート結果を示す。参加者は 84 名であった。職業は、看護師が最も多く、ついで臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、保健師の順であった。年齢、性別は、40 歳代が最も多く、多くは女性であった。就業年数は 10 年以上が最も多かった。セミナーの実施時期、開催方法、講演時間、講演内容、満足度も高かった。





D. 考察

研究 1)

肝臓 Co 養成セミナーは、講義形式の知識を得る場である。WEB 形式(on demand)に変更してからは、時間の制限がないことや繰り返し見られることで評判がよく、今後も WEB 形式を継続していく方針である。

我々もとくに新しい情報がないもの（例えば C 型肝炎の DAA 製剤）などは録画したセミナーも繰り返し使え、我々の講義録画を省力化できる。一方、講義内容に関しては、2~2 時間半くらいであるため、主な肝疾患に限られている。さらに幅広く多疾患の講義することも必要かとも思われるが、長時間多くの疾患を講義しても、身につくのかを疑問に思っている。

フォローアップセミナーは、最近患者講義を入れているが、患者の生の声が聞けて好評である。グループディスカッションでは、職業別に分けているので、ざっくりばらんにディスカッションできてこれも評判が高い。時間が発表も含めて 1 時間程度であり、今後はもう少し長めにしていく予定である。

研究 2)

養成セミナーは毎回、100 名弱参加しているが、満足度も高いと自負している。実はコロナ禍で仕方なく WEB 開催としたのであるが、意外に好評で、WEB セミナーの継続を続けてほしいとの多くのコメントが

得られたことから、今後も WEB 開催を考えている。参加者も以前は看護師が圧倒的に多かったが、最近は多くの職業の方に参加いただけるようになり、よい傾向である。また職場を異動する方も多いことから、やはり多くの肝 Co を養成していく必要があると考えられた。

E. 結論

これまで多くの肝 Co を養成してきており、講義やグループディスカッションは非常に有意義なものとなっている。しかし、肝 Co としての活動ができていない方もおり、今後は人数だけでなく講義やグループディスカッションで肝 Co 活動のヒントも提供し質もさらに高めていく必要があると考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究」(R2-4)、厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究」(H29-R1)の班員として研究活動を行い、肝炎医療コーディネータの活動を支援し、受検、受診率の上昇に関する提案をおこなった。

<研究活動に関連した実務活動>

上記の研究班活動に加えて、久留米大学 消化器内科、久留米大学医療センター、久留米大学肝疾患相談支援センターのセンター長として、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。更に福岡県の肝炎対策委員として、県肝炎ウイルス対策部署と連携し、肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし